

普及活動情勢報告（平成27年7月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

普及指導計画や地域での取り組みについて検討・意見交換～第1回普及推進協議会を開催～



熱心な検討や意見交換がなされました

6月29日に管内生産者や市、JA等の委員で構成する普及推進協議会を開催しました。協議会では、農業改良普及課から本年度の普及指導計画の概要を説明した後、委員から普及計画に対する意見に加え、日ごろの活動などを紹介していただきました。具体的には「提案型の担い手育成とはどんな取り組みなのか」「若い担い手には規模拡大に意欲的な者もいるが、労働力の確保が課題だ」など、普及計画に対する意見を頂く一方、環境制御技術の導入に関することやJA女性部や農漁村女性グループ、集落営農組織などの活動及び6次産業化や鳥獣害対策の現状と課題などが紹介され、有意義な協議会となりました。

ニラの作型改善に向けて



作型改善に取り組んだ結果について
聞き取り

6月25日、JA土佐香美ニラ部会で作型の改善に取り組んでいる農家から、販売状況などを聞き取りました。ニラのハウス栽培では、冬期には生産量が少なく価格が高くなり、春期には生産量が増え価格が低くなる傾向があります。そこで、農業改良普及課では、数年前から冬期の増収を目指して作型の改善を提案しています。農家からは「生産量を記帳するようになり、経営状況が把握できるようになった。収量が増えた。」といった声が聞かれました。

今後も、調整機械の導入や作型改善の普及に取り組んでいきます。

ピーマン収穫体験学習会を開催



事前学習の様子

JA土佐香美ピーマン部会では、消費拡大と地域貢献を目的に毎年地域の小学生を産地に招いて食育活動をおこなっています。今年も6月22日に部会生産者の圃場で14名の小学生がピーマンの収穫を体験し、生産者と交流を深めました。農業改良普及課は、収穫体験を行う前の事前学習として、栽培方法や産地での取り組みを説明しました。ピーマン嫌いな小学生もいましたが、体験後の給食では自ら収穫したピーマンを食べ、「美味しい!!」と驚いていました。

今後も収穫体験や試食宣伝等の消費拡大に向けた部会活動を支援していきます。

3 J A ピーマン南国地区合同研修会



研修の様子

7月15日に南国市内のJ A南国市、J A長岡、J A十市の3 J A ピーマン部会合同で研修会を行いました。研修会では、始めに各部会の活動状況などを報告し、部会間の相互理解を深めました。農業改良普及課からは27園芸年度に設置した炭酸ガス施用や土着天敵の利用実証ほについて各部会で取り組んだ結果を報告しました。講演会では、農業改良普及課から「環境制御技術の基礎、芸西ピーマンでの炭酸ガス施用事例等について」、環境農業推進課から「農薬の安全使用と湿度制御による病虫害防除」、「リモニカスカブリダニについて」、OATアグリから茨城のピーマンの事例等を用いた「養液土耕システム」について勉強しました。また、研修会終了後には懇親会で親交を深めました。

農業改良普及課では、引き続き3 J Aでの合同活動やかん水・施肥技術も含めた環境制御技術の導入を支援していきます。

農家レストラン「まほろば畑」の新体制について意見交換会



意見交換前に新体制案の説明を受けるグループ員

7月7日、南国市の農家レストランまほろば畑の総会に37名が参加し、28年度の新体制案について意見を交換しました。現在の5グループ中、3グループが活動を継続しないため、行政チームと役員で協議した新体制案について5班に分かれて検討しました。農業改良普及課等行政チーム員が進行し、意見をとりまとめて発表しました。参加者からは、「道の駅から食材を調達し、片付け作業員を雇用すれば、労働軽減になり大賛成」、「人数制限には反対。お客様を断ることになる、おもてなしを優先すべき」などの意見が聞かれました。

農業改良普及課は、今後、新グループの育成を支援します。

第1回香美市集落営農塾を開催



集落営農塾の様子

6月24日、中央東農業振興センターにおいて、第1回香美市集落営農塾を開催し、3組織の5名が参加しました。香美市には14の集落営農組織があるため、活動のステップアップとして「集落営農組織の法人化」をテーマに講義を行いました。高知県農業会議や地域農業推進課の協力のもと、法人組織の紹介や法人化のメリット・デメリットを説明しました。参加者からは、「これから組織で検討していきたい」「限界集落で人がいないので難しい」等の意見が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も集落営農組織の活動促進に向けて支援していきます。

露地・雨よけシシトウの目慣らし及び現地検討会の開催



雨よけハウス内での検討会の様子

7月9日、JA土佐香美香我美支所において、露地、雨よけシシトウの目慣らし会、現地検討会を開催し、シシトウ農家6名が参加しました。JAからはシシトウの選別方法、腐敗事故防止、栽培管理について説明があり、農業改良普及課からは、これまでの気象条件や長雨による日照不足の影響、今後の台風対策について情報提供をしました。参加した農家はシシトウの荷造り状態を見て収穫の大きさ、規格、品質について、また、現地ではシシトウの病害虫、整枝方法について確認し合いました。

農業改良普及課は、今後もシシトウの収量向上にむけて支援していきます。

増収技術をPR！ 中央東地区環境制御技術に関するグループ実証試験成果発表会から



大スクリーンで成果を披露する
普及指導員

7月7日、JA土佐香美本所で、農業改良普及課とJAの共催で炭酸ガス施用等実証ほの試験成果発表会を開催し、管内の生産者、JA、県関係者ら57人が参加しました。管内外で実証したニラ、シシトウなどの品目について、担当普及指導員が成果や課題を説明しました。参加した生産者の中には、次作から事業で炭酸ガス施用を始める農家も多く、施用方法や結果を最後まで傾聴していました。

農業改良普及課では、次作も炭酸ガス施用等の実証ほを設置し、環境制御技術の確立と普及を目指します。

広がる環境制御技術を指導！ JA長岡地区農家巡回から



環境制御機器について助言する営農指導員（右）と普及指導員（左）

7月2日、JA長岡と農業改良普及課は、管内の環境制御技術の導入希望農家4戸を対象に、巡回指導を行いました。個別に農家の意向を聞きながら、環境測定装置や炭酸ガス発生機などの各機種の特徴や施用方法について助言しました。JA長岡では環境制御技術導入加速化事業でシシトウ、ピーマン農家8戸（うち6戸が炭酸ガス発生機）が導入予定であり、一気に環境制御技術が拡大しました。

農業改良普及課は、部会等で実証結果などの情報提供と炭酸ガス施用技術等導入農家の増収に向けて支援を行います。